

# 船橋の街道を調べる 御成街道編



近世の船橋は佐倉道、上総道、御成街道、行徳道、木下道などの合流地点で、江戸と房総・常陸東南部をつなぐ交通の要所でした。これらの街道が宿場町船橋の発展の基盤となりました。

## 御成街道とは

東金街道、東金御成街道とも呼ばれています。

前原西（通称札場）で佐倉道と分岐し、犢橋・金親・中田を経て東金に達します。

慶長18年12月13日、家康の命を受けた佐倉藩主土井利勝が3日3晩で造成したと伝えられています。徳川将軍の鷹狩り用として造られたという御成街道には、将軍専用の休憩所が船橋・御殿町・東金に設けられていました。

## 御成街道を調べる主な資料

書名	著者名等	請求記号 資料番号	内容・該当箇所
『船橋市史 前篇』	船橋市／編 1959年	110/21/フ 010999274	「徳川時代の船橋宿」 (pp.111-218)
『船橋市史 近世編』	船橋市史編さん委員会／ 編 船橋市役所 1998年	110/21/フ 013732565	「宿場町船橋の変遷」 (pp.119-149)
『船橋繁華街形成史』	天下井恵／著 船橋歴史 情報ネットワーク 1996年	110/21/フ 012903787	船橋の都市形成史について
『飛ノ台史跡公園博物館紀要 第17号』	飛ノ台史跡公園博物館／ 編 2021年	110/21/ト 015883044	「船橋御殿跡について」 (pp.1-18)
『道標』	船橋市郷土資料館／編 1983年	110/71/ト 011143450	市内の道標(辻や分岐点 の交通標識)の調査書
『御成街道』 千葉県歴史の道調査報告書 9	千葉県教育庁文化課／編 集 1989年	000/29/チ 011830247	御成街道の歴史と道筋の 文化財の調査報告書
『房総の道 東金御成街道』	本保弘文／著 聚海書林 1991年	000/68/ホ 011990926	御成街道の歴史と解説 巻末に「鷹狩り関係年表」
『東金御成街道を探る』	本保弘文／著 暁印書館 1998年	000/29/ト 013251962	写真・図版・地図を豊富に 使い歴史を解説
『東金御成街道史跡散歩』	本保弘文／著 暁印書院 2000年	000/29/ト 013603972	御成街道の道筋の寺社 や史跡を詳細に解説
『房総の郷土史 第3号』	千葉県郷土史研究連絡協 議会／編 1975年	000/21/ホ 015342371	「御成街道考」 (pp.74-83)

書名	著者名等	請求記号 資料番号	内容・該当箇所
『千葉県の歴史 9』	千葉県企画部県民課／編 千葉県 1975年	000/21/チ 010973139	「御成街道」 (pp.48-57)
『房総路 34』 特集 房総の交通史	押尾孔版社／編 1996年	000/21/チ 012911806	「東金街道の起点と終点」 (pp.7-13)
『城郭と中世の東国』	千葉城郭研究会／編 高志書院 2005年	000/21/シ 013846720	「徳川将軍の御殿と御茶屋」(pp.303-334)
『千葉の道千年物語』	山本光正／監修 千葉日報社 2002年	000/68/チ 013556014	房総の古道から現代の道路まで解説
『習志野市史 第2巻 史料編1』	習志野市史編集委員会／編 1986年	132/21/ナ 011512050	関係史料の翻刻を収載 「四 東金御成街道」
『東金市史 史料編3』	東金市／編 1980年	231/21/ト 011043940	関係史料の翻刻を収載 「一 御成街道関係文書」

## 「船橋御殿」とは

将軍専用の宿泊施設のこと。

「船橋御殿の地は総面積 1 丁 6 反 5 畝 24 歩で、佐倉街道と船橋川に挟まれた一帯であった。御立野や囲土手に囲まれ、そのほぼ中央に御殿が築かれていたようである。貞享年中(1684～88)、船橋大神宮宮司富大膳がこの跡地を賜い、開墾して畑地として使っていたことが確認できる(『船橋市前篇』附図)。現在、この地には小さな東照宮が建ち、御殿地または御殿山と呼ばれ、当時の名残を伝えている。」(『船橋市史 近世編』より抜粋)



「船橋御殿地絵図」(船橋市西図書館所蔵)

船橋御殿の構造を知る唯一の史料。宝永4年(1707)4月作成。  
土地所有者である船橋大神宮宮司の富大膳が願い出て、所有地の境目を明らかにするために作成された裁許絵図。

※「船橋市デジタルミュージアム」で閲覧可